

9th JSMD プログラム

会長講演

基調講演

招待講演

教育講演1～4

シンポジウム1～13

ワークショップ1～4

交流の広場

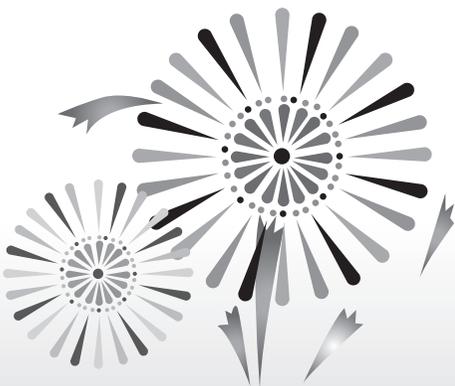
双極性障害委員会企画シンポジウム
コメディカル委員会企画シンポジウム

自殺対策委員会企画シンポジウム

第6回うつ病診療講習会

第7回 学会奨励賞受賞講演

2012年 下田光造賞受賞講演





会長講演

7月27日(金) 12:50 ~ 13:40

第1会場(エミネンスホール)

うつ病臨床における回復論導入の重要性
~大会テーマ“今こそ問う、うつ病のパースペクティブ”に寄せて

司会	神庭 重信	九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野
演者	石郷岡 純	東京女子医科大学医学部精神医学教室

基調講演

7月27日(金) 13:40 ~ 14:30

第1会場(エミネンスホール)

双極性障害の歴史・概念の変遷ーリチウムに焦点を当てて

司会	樋口 輝彦	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
演者	渡邊 昌祐	一般財団法人河田病院心療内科/医療法人至誠会帆秋病院

招待講演

7月28日(土) 13:20 ~ 14:10

第1会場(エミネンスホール)

Prevalence and characteristics of undiagnosed bipolar disorders in patients with a major depressive episode

司会	石郷岡 純	東京女子医科大学医学部精神科
演者	Charles L. Bowden	University of Texas Health Science Center, School of Medicine, San Antonio, Texas

教育講演1

7月28日(土) 11:10 ~ 12:00

第1会場(エミネンスホール)

抗うつ薬開発の歴史

司会	中村 純	産業医科大学医学部精神医学教室
演者	村崎 光邦	CNS薬理研究所

教育講演2

7月28日(土) 11:10 ~ 12:00

第2会場(コンコードB)

今こそ問い直す、単一精神病論

司会	三村 將	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
演者	坂元 薫	東京女子医科大学医学部精神医学講座



教育講演3

7月28日(土) 11:10 ~ 12:00

第3会場(コンコードC)

看護における質的研究の実際

—うつ病患者におけるナラティブアプローチの治療的効果の検証—

司 会	加茂 登志子	東京女子医科大学附属女性生涯健康センター
演 者	長谷川 雅美	金沢大学医薬保健研究域保健学系

教育講演4

7月28日(土) 13:20 ~ 14:10

第4会場(コンコードA)

気分障害の精神病理と司法精神医学

司 会	下寺 信次	高知大学医学部医学科神経統御学講座神経精神病態医学教室
演 者	中谷 陽二	筑波大学名誉教授/クボタクリニック



シンポジウム1 難治性気分障害にどう対応するか

7月27日(金) 9:30 ~ 11:30

第1会場(エミネンスホール)

オーガナイザー 野村 総一郎 防衛医科大学校精神科学講座

【趣旨・狙い】

かつて気分障害は「予後良好で治りやすい」というイメージで捉えられていたかと思われるが、実はかなりの部分が難治化し「なかなか手強い病気」というのが、今日的な臨床家の実感となっている。難治性気分障害は当然その定義からして、通常のガイドラインを駆使しても治りにくいわけであるから、様々の現場的な工夫が要請されるところである。もちろん、その基盤として必要なのは、「なぜ難治化するのか」「どのようなタイプが難治化しやすいか」という理論であろうし、治療経験の蓄積と、可能なかぎりのデータの裏付けであろう。このシンポでは、難治性気分障害に取り組む、気鋭の臨床家、研究者に集まっていたいただき、様々の視点で論じたい。

司 会 野村 総一郎 防衛医科大学校精神科学講座
長谷川 雅美 金沢大学医薬保健研究域保健学系

- S1-1 **難治性気分障害の概念と臨床的意義**
田中 輝明 北海道大学大学院医学研究科精神医学分野
- S1-2 **難治性気分障害の薬物治療**
稲田 俊也 公益財団法人神経研究所附属晴和病院
- S1-3 **難治性うつ病と養育環境**
戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座
- S1-4 **認知行動療法からのアプローチ —看護の立場から—**
岡田 佳詠 筑波大学医学医療系

シンポジウム2 児童青年期と成人のうつ病 —類似と相違—

7月27日(金) 9:30 ~ 11:30

第2会場(コンコードB)

オーガナイザー 大森 哲郎 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野

【趣旨・狙い】

児童青年期のうつ病は、症候、パーソナリティ、発病状況、薬物応答性、精神療法への反応性などにおいて、成人期のうつ病と必ずしも同一ではない。その類似と相違を出来るだけ明確にすることは、受診の増加している児童青年期症例の適切な診療に必須である。さらに、児童から青年を経て成人へと至る時間軸の導入は、多彩な発症様式と臨床表現と治療反応を示すうつ病という疾患全体を整理するための切り口としての意義も少なくない。シンポジウムでは、4つの異なった観点から児童青年期と成人期のうつ病の類似と相違が検討される。

司 会 大森 哲郎 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野
傳田 健三 北海道大学大学院保健科学研究院生活機能学分野

- S2-1 **世代による症候論の特徴**
井崎 ゆみ子 徳島大学保健管理センター／徳島大学病院精神科
- S2-2 **児童青年期と成人のうつ病—類似と相違—「パーソナリティと状況因」**
牛島 定信 三田精神療法研究所



S2-3 薬物応答性からみた大人と子どものうつ病

黒木 俊秀 国立病院機構肥前精神医療センター

S2-4 児童青年期と成人期のうつ病ー類似と相違ー：認知療法から

井上 和臣 内海メンタルクリニック・認知療法研究所

シンポジウム3 うつ病医療・医療従事者に求めること、望むこと

7月27日(金) 9:30 ~ 11:30

第3会場(コンコードC)

オーガナイザー

樋口 輝彦 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター

【趣旨・狙い】

うつ病に対する社会的関心が高まり、うつ病の啓発が進む一方で、うつ病の診断法、治療法、職場での対応、家族の接し方などについての疑問も多く聞かれるようになっている。しかし疑問は疑問のまま残り、何が正しいかの判断が得られぬまま、疑問の淵に戻ることが多い。場合によっては誤解もあると思われるが、その誤解も解消されない場合が多い。その結果、うつ病の受療者と医療者の間の不信感は増強されることはあっても、減ることはない。これは相互にとって大変不幸である。本シンポジウムは、社会の側からうつ病医療に携わる人たちに率直な疑問、批判、要望、期待を述べてもらい、これにうつ病医療従事者が応えることを通じて少しでも不信感を取り除き、うつ病医療の質を高めることを目的に企画した。

司 会

樋口 輝彦 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
山脇 成人 広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医学教室

S3-1 ~企業の立場から~

高橋 信雄 JFEスチール株式会社

S3-2 メディアの立場から

南 砂 読売新聞東京本社編集局医療情報部

S3-3 自治体で健康増進にかかわる立場から

坂元 昇 川崎市健康福祉局

S3-4 一般内科医からみたうつ病

福井 次矢 聖路加国際病院病院長

指定発言

神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室



シンポジウム4 境界性パーソナリティ障害 (BPD) の診断・治療・病態

7月27日(金) 9:30 ~ 11:30

第4会場(コンコードA)

オーガナイザー 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

【趣旨・狙い】

境界性パーソナリティ障害 (BPD) は気分障害と併存することが多く、自殺既遂に至る例も少なくない。対応困難な例であればBPDと安易に診断される一方、双極性障害の過剰診断の背景にBPDが看過されているとの報告もあり、さらにDSM5ではディメンショナルな診断が採用されるとの議論もなされている。近年の予後研究によれば、長期予後を見れば決して悪くないとされ、Dialectical Behavior TherapyやTransference Focused Psychotherapyといった心理社会的介入法の効果と薬物療法のメタ解析も報告された。また、病態に関する生物学的な知見も集積されている。以上を踏まえ、BPDの診断、治療、病態に関する知見を確認し、気分障害臨床に役立つ情報提供を企図したシンポジウムを企画した。

司 会 大野 裕 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

S4-1 わが国におけるBPD診断の今後の方向性について

林 直樹 東京都立松沢病院精神科

S4-2 境界性パーソナリティ障害 (BPD) の弁証法的行動療法 (DBT) による治療

大野 裕 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

S4-3 境界性パーソナリティ障害 (BPD) の治療ガイドラインと力動的な精神療法

木村 宏之 名古屋大学医学部附属病院精神科

S4-4 境界性パーソナリティ障害の薬物療法と病態

尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

シンポジウム5 うつ病精神療法の未来

7月27日(金) 14:40 ~ 16:40

第1会場(エミネンスホール)

オーガナイザー 大野 裕 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

【趣旨・狙い】

うつ病の治療は薬物療法と精神療法が大きな柱であるが、わが国のうつ病臨床では、精神療法が十分に活用されていると言いがたい。そこで、うつ病の精神療法のなかでも、欧米でエビデンスが多く示されている認知行動療法と対人関係療法を取り上げ、厚生労働省の研究班の成果を中心に、わが国における精神療法の今後の展望について議論する。当日は、診療報酬化されたうつ病の認知行動療法と今後の展望(大野裕)、身体疾患に伴ううつ病への認知行動療法(産科領域、特に不育症を中心として)(中野有美)、職域のストレス対処と認知行動療法(田中克俊)、うつ病に対する対人関係療法(水島広子)、精神療法の脳科学的基盤(岡本泰昌)について議論を深める。

司 会 大野 裕 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

S5-1 うつ病の認知行動療法と今後の展望

大野 裕 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

S5-2 身体疾患に伴ううつ病への認知行動療法(産科領域、特に不育症を中心として)

中野 有美 椋山女学園大学人間関係学部心理学科



- S5-3 **職場のストレス対処と認知行動療法**
田中 克俊 北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学
- S5-4 **うつ病に対する対人関係療法**
水島 広子 水島広子こころの健康クリニック/慶應義塾大学医学部
- S5-5 **精神療法の脳科学的基盤**
岡本 泰昌 広島大学大学院医歯薬保健学研究科

シンポジウム6 産業医学現場でのメンタルヘルス

7月27日(金) 14:40 ~ 16:40

第2会場(コンコードB)

オーガナイザー 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
吉田 契造 株式会社デンソー健康推進部

【趣旨・狙い】

本シンポジウムのテーマは、1. 産業精神保健領域の新しい話題および進歩、2. 産業医と臨床医との相互理解、の二つからなる。前者については、まず、労働安全衛生法改正案の「メンタルヘルス対策の充実・強化」部分に関する問題点と、望まれる姿について論じられる。次いで、復職支援プログラムに関して、その有用性に関する新しいデータと、プログラム内容の最適化に関する展望が示される。後者については、産業医と精神科臨床医との意思疎通が必ずしも円滑に行われていない現状について、精神科を専門とする産業医と精神科を専門としない産業医が、それぞれの立場から論じ、相互理解への道筋を探る。

司 会 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
吉田 契造 株式会社デンソー健康推進部

- S6-1 **職域ストレス健診とうつ病の早期発見**
中村 純 産業医科大学医学部精神医学教室
- S6-2 **復職支援プログラムの効果的な利用法**
五十嵐 良雄 メディカルケア虎ノ門/うつ病リワーク研究会
- S6-3 **精神科を専門とする産業医が精神科臨床医とのやりとりで困ること**
吉田 契造 株式会社デンソー健康推進部
- S6-4 **精神科を専門としない産業医が精神科臨床医とのやりとりで困ること**
浜口 伝博 新日本有限責任監査法人



シンポジウム7 気分障害を発達障害から見直す

7月27日(金) 14:40 ~ 16:40

第3会場(コンコードC)

オーガナイザー 大森 哲郎 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野
 傳田 健三 北海道大学大学院保健科学研究院生活機能学分野

【趣旨・狙い】

臨床家が発達障害を見慣れるにつれ、気分障害との併存が例外というほど少なくないことにも気付かれてきた。併存は頻度の高いふたつの障害が偶発的に重なるだけなのか。それとも発達障害の存在が気分障害のリスクを増加させるのか。増加させるとしたらなぜか。発達障害に特有の心理特性と行動様式は気分障害の発症や症状にどのような影響を与えるのか。気分障害の成因や病態を検討するさいに発達障害の併存の問題を考慮に入れなくてよいか。入れるとすればどのように。シンポジウムは気分障害を発達障害から見直すことによって、いままで盲点になっていたことに光を当てることを意図している。

司 会 大森 哲郎 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野
 傳田 健三 北海道大学大学院保健科学研究院生活機能学分野

S7-1 広汎性発達障害と気分障害

傳田 健三 北海道大学大学院保健科学研究院生活機能学分野

S7-2 ADHDと双極性障害

小平 雅基 国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科

S7-3 気分障害を発達障害から見直す

—発達障害から見た気分障害の素因、病前性格、発病状況—

山下 洋 九州大学病院精神科神経科子どものこころの診療部

S7-4 症状プロファイルと生物学的知見からみた発達障害と気分障害の位置づけ

岡田 俊 名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

シンポジウム8 気分障害と不安障害の併存

7月28日(土) 9:00 ~ 11:00

第1会場(エミネンスホール)

オーガナイザー 白川 治 近畿大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

気分障害では、精神疾患の併存が75%にもものぼるとする米国の大規模な疫学調査の報告もあり、comorbidity概念に批判的な議論を考慮しても気分障害の臨床における重要な課題であることに間違いはない。なかでも、不安障害の併存は最もありふれたものとして、またSSRIの治療適応とも絡んで、日常診療で問題となることが多い。本シンポジウムでは、気分障害に併存する不安障害として、その頻度の高さ、診療における重要度から、全般性不安障害、パニック障害、社会不安障害、強迫性障害について、それぞれの疫学、診断上の問題、治療における留意点などを明らかにする。

司 会 白川 治 近畿大学医学部精神神経科学教室
 岩田 伸生 藤田保健衛生大学医学部精神医学

S8-1 全般性不安障害と気分障害の併存

大坪 天平 東京厚生年金病院精神科・心療内科



- S8-2 **気分障害と不安障害の併存：パニック障害の併存について**
塩入 俊樹 岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野
- S8-3 **全般性の社交不安障害からうつ病へのつながり**
永田 利彦 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
- S8-4 **強迫性障害の併存**
松永 寿人 兵庫医科大学精神科神経科講座

シンポジウム9 大震災とメンタルヘルス

7月28日(土) 9:00 ~ 11:00

第2会場(コンコードB)

オーガナイザー 秋山 剛 NTT東日本関東病院精神神経科

【趣旨・狙い】

大震災とメンタルヘルスに関する問題を、様々な立場で支援にかかわった方々から、多角的な報告をしていただき、フロアとの討論を進めたいと思います。

司 会

秋山 剛 NTT東日本関東病院精神神経科
金 吉晴 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

- S9-1 **大震災後のメンタルヘルスについて**
金 吉晴 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
- S9-2 **福島におけるメンタルヘルスの問題**
小西 聖子 武蔵野大学人間科学部
- S9-3 **東日本大震災心理支援センターの活動**
奥村 茉莉子 一般社団法人日本臨床心理士会
- S9-4 **東京英語いのちの電話と地元のNPOとの協働**
佐藤 麻衣子エリザベス 特定非営利活動法人東京英語いのちの電話
- S9-5 **PIPC (Psychiatry in Primary Care) inいわて 2010 & 2012**
木村 勝智 みよし市民病院内科



シンポジウム10 認知症とうつ病の間

7月28日(土) 9:00 ~ 11:00

第3会場(コンコードC)

オーガナイザー 朝田 隆 筑波大学臨床医学系精神医学

【趣旨・狙い】

高齢者のうつ病臨床における最大の問題点として、うつ病と認知症の関係、すなわち「いずれが卵か鶏か」という観点が注目されている。その因果関係は複雑だが、近年の神経病理学的知見や昨日画像の知見から、着実な進行もみられつつある。このシンポジウムでは、とくにうつ病は認知症の危険因子であるか、また認知症の前駆症状としてのうつ病の特徴を明らかにするとともに、高齢者のうつ病に特徴的な認知機能の障害パターンを学ぶ機会にしたい。

司 会 朝田 隆 筑波大学臨床医学系精神医学
加藤 元一郎 慶應義塾大学医学部精神神経科

- S10-1 **うつと認知症の共通脳内基盤**
楯林 義孝 公益財団法人東京都医学総合研究所統合失調症・うつ病プロジェクトうつ病研究室
- S10-2 **うつ病における認知機能障害**
加藤 元一郎 慶應義塾大学医学部精神神経科
- S10-3 **うつ病とアルツハイマー病 –アミロイド仮説に基づく一考察–**
馬場 元 順天堂大学医学部精神医学講座／順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院
- S10-4 **Lewy小体型認知症とうつ病**
水上 勝義 筑波大学大学院人間総合科学研究科

シンポジウム11 睡眠とうつ病

7月28日(土) 9:00 ~ 11:00

第4会場(コンコードA)

オーガナイザー 内山 真 日本大学医学部精神医学系

【趣旨・狙い】

うつ病と睡眠の関連について、うつ病の症状としての不眠、うつ病の危険因子としての不眠、うつ病の病因としての生体リズム異常や睡眠障害、うつ病の残遺症状としての睡眠障害の4つのポイントからとらえ、うつ病診断における睡眠障害同定の意義、うつ病治療効果に対する睡眠への介入の効果などについて、最近の疫学データ、臨床研究報告、基礎医学的報告の中からレビューし、討論することで、理解を深めたい。

司 会 内山 真 日本大学医学部精神医学系
三島 和夫 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター

- S11-1 **うつ病とリズムの障害**
北島 剛司 藤田保健衛生大学医学部精神神経科学講座
- S11-2 **不眠の認知行動療法を用いたうつ病再発予防効果について**
眞鍋 貴子 東京慈恵会医科大学医学部精神医学講座
- S11-3 **うつ病に対する断眠療法**
越前屋 勝 秋田大学大学院医学系研究科医学専攻病態制御医学系精神科学講座



S11-4 **うつ病と睡眠障害の関連**
鈴木 正泰 日本大学医学部精神医学系

シンポジウム12 うつ病の広がりを検証する

7月28日(土) 14:20 ~ 16:20

第1会場(エミネンスホール)

オーガナイザー 坂元 薫 東京女子医科大学医学部精神医学講座

【趣旨・狙い】

この数年、うつ病の状態像の変化やその多様化がしきりと論じられるようになった。「新型うつ病」というマスコミの造語が、きちんとした定義もなしに独り歩きしているのが現状である。うつ病患者の増加が指摘され、啓発活動がますます盛んとなる今日あって、そもそも「うつ病とは何か」をあらためて問い直す機会が必要とされよう。多様化し、複雑化したとされるうつ病を前にして、誠実にうつ病臨床に取り組む臨床家ほど、戸惑いを感じているのも事実であろう。そうした中で、「うつ病のひろがり」をさまざまな視点から第一線の気鋭の臨床家に縦横無尽に論じていただくことにより、うつ病の日常臨床に資することを本シンポジウムの目的としたい。

司 会 坂元 薫 東京女子医科大学医学部精神医学講座
野村 総一郎 防衛医科大学精神科学講座

S12-1 **現代のうつ病の広がり—様々な呼称に振り回されるな—**
黒木 俊秀 国立病院機構肥前精神医療センター

S12-2 **未熟型うつ病と双極スペクトラム**
阿部 隆明 自治医科大学医学部精神医学教室/自治医科大学とちぎ子ども医療センター

S12-3 **うつ病は広がっているのか、広がっていると思われているのか**
太田 敏男 埼玉医科大学医学部神経精神科・心療内科

S12-4 **うつ病の概念は本当に広がっているのか**
大野 裕 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

シンポジウム13 うつ病治療の工夫—新たな試みの位置付けを探る—

7月28日(土) 14:20 ~ 16:20

第2会場(コンコードB)

オーガナイザー 田島 治 杏林大学保健学部精神保健学教室

【趣旨・狙い】

うつ病と診断され、5年、10年なかには20年以上も様々な薬物による治療を受けても回復せず、復職できない、家事も育児もできない、寝たり起きたりの生活のままでは先が見えない、という方が増えています。その一部には双極性障害や双極スペクトラム障害が見逃されていて場合もありますが、薬物以外のさまざま工夫で改善しないしは回復する可能性のある例も少なくありません。そこでこのシンポジウムでは、うつ病治療の工夫ということで、新たな視点でうつ病からの回復を目指す治療の試みを紹介し、その現状と位置付け、今後の方向性を考えたいと思います。

司 会 田島 治 杏林大学保健学部精神保健学教室
井原 裕 獨協医科大学越谷病院こころの診療科

S13-1 **対人関係療法**
水島 広子 水島広子こころの健康クリニック/慶應義塾大学医学部



- S13-2 **行動活性化療法**
熊野 宏昭 早稲田大学人間科学学術院
- S13-3 **うつ病対処12の指針(試案)**
井原 裕 獨協医科大学越谷病院こころの診療科
- S13-4 **うつ病運動療法の可能性**
内田 直 早稲田大学スポーツ科学学術院
- S13-5 **減薬・断薬**
田島 治 杏林大学保健学部精神保健学教室



ワークショップ1 うつ病研究の問題点と今後の課題

7月27日(金) 17:50 ~ 19:20

第1会場(エミネンスホール)

コーディネーター 大坪 天平 東京厚生年金病院精神科・心療内科

【趣旨・狙い】

うつ病はheterogeneousな疾患であり、その中核群が不明瞭になってきている。そのような中、様々な方法論を駆使して、うつ病への接近が試みられている。このワークショップでは、わが国を代表するうつ病研究者に、それぞれの方法論を通したうつ病研究の結果と、その問題点、今後の課題を述べていただく。

順に、産業医科大学の吉村玲児先生に、「血中物質からのうつ病分類と抗うつ薬の選択」という題で、徳島大学の伊賀淳一先生に「mRNA発現に着目したバイオマーカー研究—その効用と課題—」という題で、自衛隊中央病院の田中徹平先生に「気分障害の動物モデルによる病態解明と創薬研究—現状と課題—」という題で、最後に、東京都医学総合研究所の楯林義孝先生に「死後脳研究による病態解明と創薬研究—現状と課題—」という題でお話しいただき、その後、討論につなげていきたい。

司 会 大坪 天平 東京厚生年金病院精神科・心療内科
黒木 俊秀 国立病院機構肥前精神医療センター臨床研究部

WS1-1 血中物質からのうつ病分類と抗うつ薬の選択

吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

WS1-2 mRNA発現に着目したバイオマーカー研究—その効用と課題—

伊賀 淳一 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野

WS1-3 気分障害の動物モデルによる病態解明と創薬研究—現状と課題—

田中 徹平 自衛隊中央病院精神科

WS1-4 死後脳研究による病態解明と創薬研究—現状と課題—

楯林 義孝 公益財団法人東京都医学総合研究所統合失調症・うつ病プロジェクトうつ病研究室

ワークショップ2 患者支援

7月27日(金) 17:50 ~ 19:20

第2会場(コンコードB)

コーディネーター 小野 賢一 東京女子医科大学神経・精神科

【趣旨・狙い】

患者支援を考える際には、治療と並行し、住み慣れた社会で安定した"暮らし"を構築していくための様々な視点からの支援をしていくことが重要であるが、現代社会は職場のメンタルヘルスや自殺問題など生活上には多くの社会的課題が存在している。そこで、本ワークショップでは、多様な場面で、実際にどのような支援を行っているのかという実践の現場を知り、他職種共働型の患者支援をどうしたら円滑に行うことができるのか、本質的な患者支援とはどうあるべきかということについて理解を深めることを目的として実施したいと考える。

司 会 小野 賢一 東京女子医科大学神経・精神科

WS2-1 一般医療の実践から

盛 裕子 東京女子医科大学附属東医療センター

WS2-2 地域支援の実践から

友利 幸湖 社会福祉法人結の会オフィスクローバー

WS2-3 司法の実践から—多業種との連携をめざして—

田部 知江子 ミモザの森法律事務所



ワークショップ3 うつ病治療におけるイニシャル・コンタクト(アドヒアランス維持のため)

7月27日(金) 17:50 ~ 19:20

第3会場(コンコードC)

コーディネーター 佐藤 啓二 メーブル・クリニック

【趣旨・狙い】

うつ病患者は治療機関において、最初の1ヶ月で約半数が脱落しているという報告がある。うつ病治療のアドヒアランスを考える上で重要なのは、治療の見通しを共有することであり、そのために治療初期から良好な医師-患者関係を築く必要がある。患者への説明においては、うつ病の症状・経過、薬の副作用などに関する説明が重要であると認識していても、特にうつ病の初診患者では病識の乏しさ等もあって全てを上手く説明することに限界がある。本ワークショップでは、治療初期の医師-患者関係(イニシャル・コンタクト)にスポットをあて、双方の間で意識のギャップを生まず、長期予後に影響するアドヒアランスの向上を目的とした対策について、何か方策が導き出せたらと願っている。

司 会

佐藤 啓二 メーブル・クリニック
中込 和幸 独立行政法人国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター
臨床研究支援部

WS3-1 精神科診療所における治療脱落防止のためのイニシャルコンタクト

佐藤 啓二 メーブル・クリニック

WS3-2 うつ病軽症例との遭遇：医療者としてのやり方と在り方

内藤 宏 藤田保健衛生大学医学部精神神経科学

WS3-3 うつ病患者の長期的なアドヒアランス維持を目指した治療導入

中込 和幸 独立行政法人国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター
臨床研究支援部

ワークショップ4 うつ病治療の終結—その治療はいつまで続けるべきなのでしょう？—

7月27日(金) 17:50 ~ 19:20

第4会場(コンコードA)

コーディネーター 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

うつ病治療において寛解を目指すことが共通のゴールとなっており、今のところ薬物療法、認知行動療法が効果的とされているが、一体科各々の治療法をいつまで続けるべきかについてはまだ広く理解されていない。また、増強療法や併用療法も単剤で寛解が得られない場合導入されることが増えてきているが、いつ抗うつ薬単剤に戻すかについてもあまり知られていない。本ワークショップでは、若手の一流研究者から、いつまで、また何を目安に終了し、さらに終了後どのようにフォローすれば良いかについてご紹介いただく。

司 会

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
中川 敦夫 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

WS4-1 うつ病の薬物療法の終結

渡辺 範雄 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学

WS4-2 認知行動療法の終結：臨床とエビデンス

中川 敦夫 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

WS4-3 増強療法・併用療法を抗うつ薬単剤治療に戻すタイミング

田中 輝明 北海道大学大学院医学研究科精神医学分野



交流の広場

うつ病の家族を抱えて：家族会からのメッセージ

7月28日(土) 14:50～16:20

第5会場(花C)

オーガナイザー 神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

【趣旨・狙い】

うつ病は本人の苦悩が大きいことは言うまでもないが、支える家族にも大きな負担となる。家族の理解と支援は、うつ病治療に欠かすことができない。しかし治療者は支える家族へも配慮を怠らず、家族の絆を強めるよう働きかける必要がある。このために、家族達の口から、その経験を聞くことは貴重な機会であろう。多くの医療関係者の参加をお願いしたい。

司 会 神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

うつのご家族にはもっとサポートが必要です
それはうつご本人の早い回復と再発を防ぐ事に繋がるはずです
砂田 くにえ うつの家族の会みなと

双極性障害委員会企画シンポジウム 双極性障害の早期発見

7月28日(土) 14:20～16:20

第3会場(コンコードC)

オーガナイザー 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

【趣旨・狙い】

双極性障害の診断に関して、30%以上は発症後10年以上が経過して正しい診断が下され(J Clin Psychiatry 64,2 p161-74,2003)、結果的に発症後の治療開始は平均7.8年を経過してからである(Bipolar Disord. 2003 5: 169-79)との報告が為されている。この様な状況を踏まえて、本シンポジウムでは、双極性障害をどの様にして早期に診断して治療へと導入するか、多様な診療状況で取り組まれている方々からの意見をお聞きして、討論することにした。

司 会 寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座
井上 猛 北海道大学大学院医学研究科神経機能学講座精神医学分野

- BS-1 小児・思春期における双極性障害の早期発見
齋藤 卓弥 日本医科大学精神医学教室
- BS-2 産業衛生現場における双極性障害の早期発見
吉田 契造 株式会社デンソー健康推進部
- BS-3 リワーク現場での双極性障害の早期発見
有馬 秀晃 品川駅前メンタルクリニック/東京大学医学部精神保健学分野
- BS-4 双極性障害の心理教育：再発兆候の自覚促進
奥山 真司 仁大クリニック/トヨタ自動車株式会社



コメディカル委員会企画シンポジウム

7月27日(金) 14:40 ~ 16:40

第4会場(コンコードA)

コメディカルの治療的役割 – 多職種連携と課題 –

オーガナイザー 森崎 美奈子 京都文教大学大学院臨床心理学研究科

【趣旨・狙い】

コメディカル委員会は、医療スタッフが関係者と円滑なコミュニケーションをはかり、より良いうつ病治療を推進するためのスキルアップと情報発信を目指しています。これまで、「診断と思春期のうつ」、「心理教育と診療」、「虐待のケース検討」、「地域保健と在宅ケア」をテーマに取り上げて来ました。しかし、「うつ」が多様化し、時にマスコミの誤った報道も多い状況の中で、「うつ病」に対して、一律のかかわり方では対処出来ない問題点が多々指摘されました。そこで今回は「コメディカルの治療的役割とは何か」を医療現場、地域・職域現場の多職種の実際の活動を通して明確にしていきたい。

司 会

森崎 美奈子 京都文教大学大学院臨床心理学研究科
長谷川 雅美 金沢大学医薬保健研究域保健学系

CS-1 病棟看護スタッフ リエゾナーズの立場から

白井 教子 北里大学病院看護部

CS-2 児童精神科臨床における心理士の役割

入砂 文月 独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院

CS-3 就労支援に関わる産業保健スタッフの立場から

高崎 正子 株式会社東芝セミコンダクター&ストレージ社四日市工場

指定発言

松為 信雄 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部

自殺対策委員会企画シンポジウム

自殺予防のエビデンス

7月28日(土) 14:20 ~ 16:20

第4会場(コンコードA)

オーガナイザー 河西 千秋 横浜市立大学医学部精神医学・保健管理センター

【趣旨・狙い】

わが国の自殺問題が深刻化してから以後、自殺対策基本法の成立・施行(2006年)、自殺総合対策大綱の策定(2007年)により、公民協働の自殺対策が動き出している。しかし、対策の内容や実施状況については領域や地域ごとにかんがりの差異があり、一方で、まだ十分な成果が認められていないというのが現状である。自殺総合対策大綱の定めるところにより、大綱の見直しが2012年中に予定されている中、どこにどのように人材や資金を充てて行くべきなのかということ、今、真剣に検討すべき時期に来ているのではなからうか。その際、施策の根拠となるのが、自殺予防のエビデンスである。「とにかく良いと思われることをやろう」という時期を過ぎ、今、重要なのは、「確実に、そして持続的な効果が期待できるもの」に注力していくこと、あるいはその根拠性がないのであれば、これを創出していくことである。本シンポジウムは、そのような趣旨で、今明らかになっている自殺予防のエビデンスを提示し、検討することを目的とする。



司 会

河西 千秋 横浜市立大学医学部精神医学・保健管理センター
張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

- JS-1 **精神療法と自殺予防**
張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
- JS-2 **自殺予防のために薬物療法によってできることは何か**
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
- JS-3 **地域保健と自殺予防**
大塚 耕太郎 岩手医科大学医学部災害・地域精神医学講座／岩手医科大学医学部神経精神科学講座
- JS-4 **メディアと自殺予防、あるいは魔法の鈴**
太刀川 弘和 筑波大学保健管理センター精神科
- JS-5 **わが国の自殺対策立案に必要な妥当性の高い根拠を創出する**
山田 光彦 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所／J-MISP Group

第6回うつ病診療講習会のお知らせ

7月28日(土) 9:00～14:00

第5会場(花C)

オーガナイザー

川崎 弘詔 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

うつ病診療における標準的な診断および治療について、5時間、少人数でのグループ形式参加型講習会で、学習する。学習形式としては、レクチャーと全体討論も実施。対象者は、うつ病の診療について、初学者から中級者としている。学習内容としては、今回は特にうつ病の寛解、完治から社会復帰までを中心とし、職場のケースを主体として取り上げることにした。講義形式と、症例検討を行い、症例検討は、グループ討議形式で行う。30名の受講者と講師+ファシリテーター(10～15名)が参加するため、グループ形式の討議においては、各講師、ファシリテーターとの討議の機会も得られ、個人の学習レベルに可能な限り対応する形式となっている。その後、全体討論を実施。全員参加型で、参加者各人の学習の習熟度をあげ、結果をフィードバックする。産業医更新ポイント対象講習会として認定を受けている(3単位)。

定 員: 30名

受 講 料: 12,000円(テキスト・受講修了証・昼食代を含む)

参加資格: 医師

形 式: ①少人数でのグループ形式参加型講習会 ②各分野の専門家による講演

講 師: 診療教育委員会委員およびうつ病診療のエキスパート

主 催: 日本うつ病学会 診療教育委員会

産業医の方へ

第6回うつ病診療講習会は、日本医師会認定産業医生涯研修会として、日本医師会認定産業医の更新に必要な生涯・専門3単位を取得できます。

日本うつ病学会 診療教育委員会
委員長 川崎 弘詔
(九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野)



<プログラム>

内 容		担当/講師(所属)
イントロダクション 講習会概略説明		川崎 弘詔 (九州大学大学院医学研究院 精神病態医学分野)
講演1	うつ病診療の30年間の変化と 職場のメンタルヘルス	五十嵐 良雄 (メディカルケア虎ノ門)
症例検討①	地方公務員(50歳男性) 休職に至る経緯 リワークパスを用いた復職 (典型的なメランコリー型うつ病)	グループワーク
		症例解説: 佐々木 高伸 (佐々木メンタルクリニック)
休 憩		
講 演	薬物療法の留意点について	田島 治 (杏林大学保健学部健康福祉学科 精神保健学・社会福祉学教室)
症例検討②	電機メーカー勤務(25歳男性) 休職に至る経緯 産業医の勧めでの転院 リワークプログラムに参加して復職 復職後の経過(現代型のうつ病)	グループワーク
		症例解説: 橋本 恵理 (札幌医科大学医学部神経精神医学講座)
昼 食		
講演2	自己愛的ケースの扱い方	平島 奈津子 (昭和大学医学部精神医学教室)
講演3	職場復帰のポイント	佐野 信也 (防衛医科大学校心理学学科目)
講習会まとめ		川崎 弘詔 (九州大学大学院医学研究院 精神病態医学分野)

第7回 学会奨励賞受賞講演

7月28日(土) 11:10 ~ 12:00

第4会場(コンコードA)

司 会 神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

演 者 ① 前嶋 仁 順天堂大学医学部精神医学教室

残存する記憶機能障害はうつ病再発のリスクを増加させる

演 者 ② 池田 英二 横浜市立大学医学部精神医学講座/富山大学医学部神経精神医学講座

うつ病等による休職者の復職後の勤務継続に影響する生理学的指標

2012年 下田光造賞受賞講演

7月28日(土) 11:10 ~ 12:00

第4会場(コンコードA)

Hypermethylation of serotonin transporter gene in bipolar disorder detected by epigenome analysis of discordant monozygotic twins

司 会 神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

演 者 菅原 裕子 理化学研究所脳科学総合センター・精神疾患動態研究チーム/
東京女子医科大学・精神医学

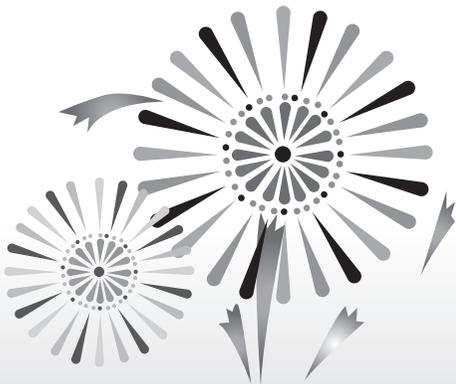
9th JSMD プログラム

モーニングセミナー 1～3

ランチョンセミナー 1～8

イブニングセミナー 1～3

市民公開講座





モーニングセミナー 1

7月27日(金) 8:30 ~ 9:20

第2会場(コンコードB)

うつ病：モノアミン仮説から神経栄養因子仮説へ —新しい治療と診断を目指した神経科学研究—

座長	橋本 亮太	大阪大学大学院/大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所附属 子どもこころの分子統御機構研究センター
演者	小島 正己	独立行政法人産業技術総合研究所健康工学研究部門バイオインターフェース研究 グループ/独立行政法人科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業
共催	アボットジャパン株式会社	

モーニングセミナー 2

7月27日(金) 8:30 ~ 9:20

第3会場(コンコードC)

女性のうつ病

座長	中込 和幸	独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター トランスレーショナル・メディカルセンター
演者	中山 和彦	東京慈恵会医科大学精神医学講座
共催	MSD株式会社	

モーニングセミナー 3

7月27日(金) 8:30 ~ 9:20

第4会場(コンコードA)

うつ病診療における治療導入から終結までの道筋 —損なわれた機能を回復するための共同作業—

座長	中村 純	産業医科大学医学部精神医学教室
演者	石郷岡 純	東京女子医科大学医学部精神医学教室
共催	大日本住友製薬株式会社	

ランチョンセミナー 1

7月27日(金) 11:40 ~ 12:40

第1会場(エミネンスホール)

Treatment strategies to prevent mood episodes and optimize outcomes in bipolar disorder

座長	白川 治	近畿大学医学部精神神経科学教室
演者	Charles L. Bowden	The University of Texas Health Science Center, School of Medicine, San Antonio, Texas
共催	グラクソ・スミスクライン株式会社	



ランチョンセミナー2

7月27日(金) 11:40 ~ 12:40

第2会場(コンコードB)

うつ病、うつ状態における適切な薬剤選択 ~そもそも適切とは何なのか?~

座長	坂元 薫	東京女子医科大学医学部精神医学教室
演者	加藤 正樹	関西医科大学精神神経科学教室
共催	Meiji Seikaファルマ株式会社	

ランチョンセミナー3

7月27日(金) 11:40 ~ 12:40

第3会場(コンコードC)

自殺予防からみたうつ病治療

座長	渡辺 洋一郎	社団法人大阪精神科診療所協会
演者	張 賢徳	帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
共催	アステラス製薬株式会社	

ランチョンセミナー4

7月27日(金) 11:40 ~ 12:40

第4会場(コンコードA)

Heterogeneousなうつ病にどう挑むか!?

座長	染矢 俊幸	新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
演者	大坪 天平	東京厚生年金病院精神科・心療内科
共催	持田製薬株式会社/田辺三菱製薬株式会社/吉富薬品株式会社	

ランチョンセミナー5

7月28日(土) 12:10 ~ 13:10

第1会場(エミネンスホール)

双極性障害について、知るべきこと、伝えるべきこと

座長	大森 哲郎	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野
演者	尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
共催	大塚製薬株式会社	

ランチョンセミナー6

7月28日(土) 12:10 ~ 13:10

第2会場(コンコードB)

高齢うつ病の治療ー認知症への移行を考慮した治療戦略ー

座長	中村 純	産業医科大学医学部精神医学教室
演者	馬場 元	順天堂大学医学部精神医学講座/順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院
共催	グラクソ・スミスクライン株式会社/大日本住友製薬株式会社	



ランチョンセミナー7

7月28日(土) 12:10 ~ 13:10

第3会場(コンコードC)

現代日本のうつ病を解剖するー自殺予防への貢献を目指してー

座長	野村 総一郎	防衛医科大学校精神科学講座
演者	坂元 薫	東京女子医科大学医学部精神医学教室
共催	旭化成ファーマ株式会社/ヤンセンファーマ株式会社	

ランチョンセミナー8

7月28日(土) 12:10 ~ 13:10

第4会場(コンコードA)

患者さんの本音に見る理想的なうつ病の薬物治療とは
ー大規模アンケートの結果からわかったことー

座長	上島 国利	国際医療福祉大学医療福祉学部
演者	渡邊 衡一郎	杏林大学医学部精神神経科学教室
共催	ファイザー株式会社	

イブニングセミナー1

7月27日(金) 16:50 ~ 17:40

第2会場(コンコードB)

うつ病と不眠症 病態と治療の最前線

座長	山田 尚登	滋賀医科大学精神医学講座
演者	内山 真	日本大学医学部精神医学系
共催	エーザイ株式会社	

イブニングセミナー2

7月27日(金) 16:50 ~ 17:40

第3会場(コンコードC)

ニーズに応えるうつ病治療:一般医と精神科専門医との連携の推進

座長	澤 温	医療法人北斗会さわ病院
演者	内藤 宏	藤田保健衛生大学医学部精神神経科学講座
共催	塩野義製薬株式会社/日本イーライリリー株式会社	

イブニングセミナー3

7月27日(金) 16:50 ~ 17:40

第4会場(コンコードA)

双極性障害の診断と治療

座長	山脇 成人	広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医学
演者	中込 和幸	独立行政法人国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター臨床研究支援部
共催	協和発酵キリン株式会社	



市民公開講座

7月28日(土) 17:30～19:30

第1会場(南館5階エミネンスホール)

第9回日本うつ病学会市民公開講座 / 第13回JCPTD市民公開講座

テーマ: うつ病者のこころの世界

共 催

日本うつ病学会
一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会
塩野義製薬株式会社 / 日本イーライリリー株式会社

後 援

東京都(予定)
東京都医師会
社団法人東京精神科病院協会
一般社団法人東京精神神経科診療所協会

司 会

石郷岡 純 第9回日本うつ病学会総会会長
東京女子医科大学医学部精神医学教室

<プログラム>

開会挨拶: 神庭 重信 日本うつ病学会理事長
九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

OL-1: 人生ケセラセラでうつ病を乗り切る

生田 悦子 女優

OL-2: うつ病治療に必須な真の休養と入院の意義

広瀬 徹也 公益財団法人神経研究所附属晴和病院

OL-3: うつ病患者さんの気持ち

小林 清香 東京女子医科大学医学部精神医学教室

パネルディスカッション

閉会挨拶: 中根 允文 一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会代表理事
長崎大学名誉教授・出島診療所

入 場 料

無料

定 員

550名

参加希望の方へのご案内

この市民公開講座は一般市民の方を対象にしております。

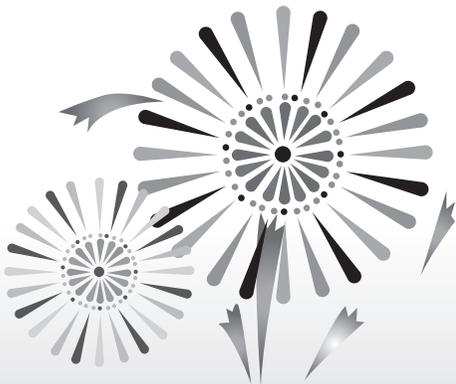
第9回日本うつ病学会総会のプログラムの一つでもあります。一般市民の方の参加を優先いたします。

第9回日本うつ病学会総会参加者の方には恐縮ですが、入場を制限させていただきます。

7月27日(金)7:30～総合受付にて市民公開講座参加を希望する方、先着100名様に市民公開講座入場券をお配りいたします。ご希望の方は総合受付にてお受取りください。100名に達した時点で締切らせていただきますのであらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

9th JSMD プログラム

一般演題（ポスター）





1. 薬物療法

P1-1 双極性障害大うつ病エピソード急性期の薬物療法：ネットワークメタ解析

勝木 聡美¹⁾、三浦 智史²⁾、神庭 重信^{1,2)}

1) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学、2) 九州大学病院精神科神経科

P1-2 認知症にともなううつ状態に対する薬物療法

－デュロキセチンの効果についての検討

服部 英幸

独立行政法人国立長寿医療研究センター

P1-3 双極性障害の維持薬物療法：ネットワークメタ解析

三浦 智史¹⁾、勝木 聡美²⁾、神庭 重信²⁾

1) 九州大学病院精神科神経科、2) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

P1-4 うつ病における血漿モノアミン代謝産物濃度の変化と臨床症状の関連の検討

官野 啓子¹⁾、三浦 至¹⁾、貝淵 俊之¹⁾、曾田 恵美^{1,2)}、大口 春香¹⁾、楊 巧会¹⁾、渡辺 研弥³⁾、
増子 博文¹⁾、丹羽 真一¹⁾

1) 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、2) 財団法人金森和心会針ヶ丘病院、

3) 福島県立医科大学附属病院薬剤部

P1-5 DuloxetineとOlanzapineの併用により、MADRSが2週間で6.9と寛解に至った31例

大塚 明彦、森本 志保

医療法人社団明明会大塚クリニック

P1-6 未成年うつ病患者の薬物療法に関する臨床的検討

梅本 由佳、田中 輝明、北川 伸樹、賀古 勇輝、河合 剛多、清水 祐輔、三井 信幸、
藤井 泰、朝倉 聡、小山 司

北海道大学病院精神科神経科

P1-7 柴胡加竜骨牡蠣湯と六君子湯の組合せが著効した焦燥感の激しいうつ病患者22症例について

西崎 真紀

まきメンタルクリニック

P1-8 双極性障害に対するアリピプラゾールの使用法試案

－アリピプラゾール漸増・漸減法について

黒沢 顕三¹⁾、伊津野 拓司²⁾、加藤 進昌¹⁾

1) 昭和大学精神医学教室、2) 神奈川県立精神医療センター芹香病院

P1-9 軽症うつ病に加味帰脾湯が奏効した2症例

森清 慎一

郡上市民病院心療内科(精神科)、大阪大学大学院医学系研究科漢方医学寄附講座



P1-10

認知症との鑑別に苦慮し、セレギリンが有効であった高齢期うつ病の一例

富永 武男¹⁾、井下 真利²⁾、大森 哲郎³⁾

- 1) 徳島大学病院精神科神経科、2) 徳島県立中央病院精神科、
3) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野

P1-11

SSRIや抗不安薬で効果不十分な月経前不快気分障害に対するラモトリギンの有用性の検討

木村 真人、下田 健吾、池森 紀夫、宮吉 孝明、寺西 美佳、皆川 薫、秋山 友美
日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

P1-12

**新規うつ病患者に対する escitalopram の効果と安全性の検討
—オープン試験—**

大下 隆司^{1,2)}、高橋 結花³⁾、小林 清香²⁾、石郷岡 純²⁾

- 1) 代々木の森診療所、2) 東京女子医科大学医学部精神医学教室、3) 東京女子医科大学病院薬部

P1-13

The Bcl1 polymorphism of glucocorticoid receptor gene and response to milnacipran and fluvoxamine in depressed patients

高橋 一志¹⁾、吉田 契造²⁾、鎌田 光宏³⁾、佐藤 和祐⁴⁾、樋口 久⁵⁾、石郷岡 純¹⁾

- 1) 東京女子医科大学医学部精神神経科、2) 株式会社デンソー、3) 山形大学保健管理センター、
4) 秋田回生会病院、5) 鈴木慈光病院

P1-14

サインバルタが奏功した繊維筋痛症の一例

高橋 一志、石郷岡 純
東京女子医科大学精神神経科

P1-15

**薬物治療の副作用として低ナトリウム血症が生じた大うつ病性障害患者に、
ミルタザピンとデュロキセチンの併用投与が奏効した1例**

河野 敬明、内出 容子、稲田 健、高橋 一志、石郷岡 純
東京女子医科大学病院神経精神科

P1-16

Lamotrigine 投与中に Stevens-Johnson 症候群を発症した双極性障害の一例

河野 仁彦、稲田 健、高橋 一志、石郷岡 純
東京女子医科大学医学部精神神経科

P1-17

デュロキセチンが奏功した乳がん術後ホルモン療法に伴う更年期症候群を合併したうつ病女性の1例

加茂 登志子¹⁾、三上 由里¹⁾、内出 容子^{1,2)}、上田 嘉代子¹⁾

- 1) 東京女子医科大学附属女性生涯健康センター、2) 東京女子医科大学精神医学教室



2. 薬物療法以外の治療法

P2-1

長期的な結果を予測した行動選択の操作が、抑うつ傾向者の示す回避行動に与える影響

高垣 耕企^{1,2)}、坂野 雄二³⁾

- 1) 北海道医療大学大学院心理科学研究科、2) 日本学術振興会特別研究員、
- 3) 北海道医療大学心理学部

P2-2

うつの誘因となったと思われた舌痛症の1例

石田 恵

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯科心身医学分野

P2-3

うつ病に対する認知行動療法の普及の試み： 地方都市部における研修プログラムの検討

古川 洋和¹⁾、大沼 泰枝²⁾、竹内 武昭^{3,4)}、中尾 睦宏^{3,4)}

- 1) 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座、2) 長野県立総合リハビリテーションセンター、
- 3) 帝京大学公衆衛生大学院、4) 帝京大学医学部附属病院心療内科

P2-4

経頭蓋磁気刺激によるうつ病治療；当院で施行した118症例

長谷川 崇¹⁾、鬼頭 伸輔¹⁾、中島 亨¹⁾、藤田 憲一²⁾、古賀 良彦¹⁾

- 1) 杏林大学医学部精神神経科学教室、2) 新中野FKクリニック

P2-5

入院森田療法における臥褥の抗うつ効果についての検討

谷井 一夫^{1,2)}、中村 敬^{1,2)}、中山 和彦²⁾

- 1) 東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・同大学森田療法センター、
- 2) 東京慈恵会医科大学精神医学講座

P2-6

高齢者のうつ病支援～音楽療法を用いた外来集団療法の試み～

奥園 景子、徳永 雄一郎

医療法人社団新光会不知火病院

P2-7

大学生の抑うつと自殺念慮に影響を及ぼす認知行動的要因の縦断的検討

佐藤 寛¹⁾、三田村 仰²⁾、佐藤 美幸³⁾

- 1) 関西大学社会学部、2) 同志社大学心理臨床センター、3) 京都教育大学教育学部

P2-8

抗うつ薬を使用しないうつ病治療の試み －精神療法を中心に治療し回復した入院例を通して－

徳永 雄一郎¹⁾、高田 和秀¹⁾、松本 進¹⁾、中野 心介¹⁾、松下 満彦²⁾

- 1) 不知火病院、2) 福岡大学医学部精神医学教室

P2-9

運動療法を併用したうつ病治療

三根 芳明

西八王子病院



P2-10

気分障害に対する認知リハビリテーションに関する検討

清水 祐輔、北川 信樹、河合 剛多、三井 信幸、藤井 泰、橋本 直樹、賀古 勇輝、
田中 輝明、久住 一郎、小山 司
北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野

P2-11

神経性過食症患者が抱く抑うつの様々な様相と、影響を与える認知に関する質的研究

竹田 剛^{1,2)}、高橋 美智子¹⁾、武久 千夏¹⁾、木川 恵理¹⁾、新宅 加奈子¹⁾、生野 照子¹⁾
1) 医療法人弘道会浪速生野病院心身医療科、2) 大阪大学大学院人間科学研究科

P2-12

鍼灸介入前後における自律神経機能と不安抑うつ状態への影響に関する研究

長部 俊一¹⁾、野田 賀大^{1,2)}、村上 裕彦¹⁾、伊東 新¹⁾、新瀬 ゆかり¹⁾、鈴木 文¹⁾、
大澤 千晶¹⁾、浅見 剛¹⁾、中村 元昭¹⁾、岩間 久行¹⁾、岩成 秀夫¹⁾
1) 神奈川県立精神医療センター芹香病院、2) 東京大学大学院医学系研究科精神医学教室

P2-13

認知行動療法を基盤とした職場復帰支援プログラムがうつ病休職者の職場復帰への困難感に及ぼす効果

伊藤 大輔^{1,2)}、栗山 晴菜³⁾、兼子 唯^{3,4)}、田上 明日香^{5,6)}、鈴木 伸一⁷⁾、熊野 宏昭⁷⁾、
貝谷 久宣⁸⁾
1) 金沢大学保健管理センター、2) 金沢大学大学院教育学研究科、3) 早稲田大学大学院人間科学研究科、
4) 日本学術振興会特別研究員、5) 早稲田大学人間総合研究センター、
6) 株式会社損保ジャパン・ヘルスケアサービス、7) 早稲田大学人間科学学術院、
8) 医療法人和楽会赤坂クリニック

P2-14

訪問看護ステーションのうつ病看護ケアに関する実態調査 ー訪問看護師が実施しているケア内容と難しさー

相澤 和美¹⁾、宮城 純子²⁾、石田 正人³⁾
1) 国際医療福祉大学大学院、2) 東京女子医科大学大学院、3) 神奈川県立芹香病院

P2-15

抑うつを自覚しながら精神科を受診しない理由について (うつ支援ネットワークインターネット調査より)

吉川 栄省¹⁾、須賀原 治彦²⁾、石黒 慎^{2,3)}、谷口 敏淳⁵⁾、中村 菜々子⁶⁾、松村 浩道^{2,4)}
1) 東芝病院神経精神科、2) NPO法人うつ支援ネットワーク、3) 獨協医科大学精神神経医学講座、
4) 氏家病院精神科、5) 鳥取生協病院医療相談室、6) 兵庫教育大学大学院学校教育研究科

P2-16

認知症でうつ状態にある在宅療養患者に対する外来看護師と訪問看護師との連携の効果の検討

坂東 紀代美²⁾、長谷川 雅美²⁾
1) 金沢大学医学系研究科保健学専攻博士後期課程、2) 金沢大学医薬保健研究域保健学系



3. 病態・症状・診断・評価

P3-1

耳鼻咽喉科外来における医学的に説明できない身体症状に隠れたうつ状態とその治療

五島 史行^{1,3)}、堤 知子²⁾、大石 直樹³⁾、三村 将⁴⁾

- 1) 独立行政法人国立病院機構東京医療センター、2) 日野市立病院耳鼻咽喉科、
- 3) 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科、4) 慶應義塾大学精神神経科

P3-2

高齢者のうつ病とHPA系、耐糖能について

横山 勝利¹⁾、山田 武史¹⁾、寺地 紗弥香¹⁾、朴 盛弘¹⁾、松村 博史¹⁾、中込 和幸²⁾、兼子 幸一¹⁾

- 1) 鳥取大学医学部脳神経医学講座精神行動医学分野、
- 2) 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター

P3-3

双極性障害における高周波数及び低周波数 γ 帯域同期性の減少

小田 祐子、鬼塚 俊明、土本 利架子、平野 昭吾、織部 直弥、上野 雄文、中村 一太、勝木 聡美、小原 尚利、神庭 重信
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

P3-4

うつ病における類型論的アプローチの再検討

川本 静香¹⁾、小杉 考司²⁾

- 1) 立命館大学大学院文学研究科、2) 山口大学教育学研究科

P3-5

うつ病の治療抵抗性予測因子について

茂木 太一、吉野 相英、野村 総一郎
防衛医科大学校病院精神科

P3-6

双極性うつ病を示唆する特徴群の診断的・治療的意義に関する包括的検討

武島 稔¹⁾、岡 敬^{2,3)}

- 1) 富山県厚生農業共同組合連合会(厚生連)高岡病院精神科、2) 特定医療法人十全会Jクリニック、
- 3) 特定医療法人十全会十全病院

P3-7

大学病院心療内科外来での双極性スペクトラム障害のスクリーニング調査

菅 さくら、端詰 勝敬、坊 裕美、岩崎 愛、佐谷 健一郎、久松 由華、小田原 幸、坪井 康次
東邦大学心身医学講座

P3-8

非定型うつ病は人の顔色に敏感？ —うつ病の非定型性に関するfMRI—

菊地 俊暁^{1,2,3)}、Jeffrey Miller¹⁾、Ramin Parsey¹⁾

- 1) コロンビア大学精神科、2) 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、
- 3) 国立精神・神経医療研究センター



P3-9

病相期に血中BDNFが低下しないうつ病

里村 恵美¹⁾、馬場 元²⁾、中野 祥行²⁾、前嶋 仁²⁾、喜多 洋平³⁾、滑川 友紀²⁾、
竹林 奈緒子²⁾、野本 宏¹⁾、鈴木 利人²⁾、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学医学部精神医学教室、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
3) 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター

P3-10

高齢うつ病の臨床的特徴再評価－HAM-Dを用いた定量的検討－

野本 宏¹⁾、馬場 元²⁾、中野 祥行²⁾、前嶋 仁²⁾、里村 恵美¹⁾、喜多 洋平³⁾、滑川 友紀²⁾、
植村 奈緒子²⁾、鈴木 利人²⁾、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学医学部精神医学教室、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
3) 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター

P3-11

双極性うつ病診断補助のための自記式質問紙の臨床的有用性について

亀山 梨絵、井上 猛、田中 輝明、仲唐 安哉、中川 伸、北市 雄士、小山 司
北海道大学病院精神科神経科

P3-12

単極性うつ病、双極性障害患者の衝動統制に関するNIRSを用いた研究

明石 浩幸、辻井 農亜、左海 真介、三川 和歌子、切目 栄司、白川 治
近畿大学医学部精神神経学教室

P3-13

NIRSを用いた双極性障害と大うつ病性障害の脳機能の差異と臨床症状の関連1

辻井 農亜、切目 栄司、明石 浩幸、三川 和歌子、船津 浩二、白川 治
近畿大学医学部精神神経科学教室

P3-14

NIRSを用いた双極性障害と大うつ病性障害の脳機能の差異と臨床症状の関連2

三川 和歌子、辻井 農亜、切目 栄司、明石 浩幸、安達 融、白川 治
近畿大学医学部精神神経科学教室

P3-15

うつ病の再発をもたらす認知的脆弱性の病態メカニズムに関する認知神経科学的検討

山本 哲也¹⁾、菅谷 渚²⁾、嶋田 洋徳³⁾、熊野 宏昭³⁾

1) 広島大学大学院医歯薬学総合研究科、2) 東京都医学総合研究所、3) 早稲田大学人間科学学術院

P3-16

CogState 認知機能バッテリーで測定したうつ病患者の認知機能障害とQOLおよび社会機能の関係

吉田 泰介^{1,2)}、石川 雅智²⁾、藤崎 美久¹⁾、新津 富央³⁾、中里 道子¹⁾、渡邊 博幸¹⁾、白石 哲也¹⁾、
椎名 明大¹⁾、橋本 佐¹⁾、金原 信久¹⁾、長谷川 直¹⁾、榎原 雅代¹⁾、木村 敦史¹⁾、伊豫 雅臣¹⁾、
橋本 謙二²⁾

1) 千葉大学精神医学、2) 千葉大学社会精神保健教育研究センター病態解析部門、
3) 子どものこころの発達研究センター

P3-17

気分障害の病前気質プロフィール分類の試み －TEMPS-A/MPT気質検査を用いて－

甲田 宗良¹⁾、薬師 崇¹⁾、久場 禎三^{1,2)}、仲本 讓¹⁾、譜久原 弘^{1,3)}、近藤 毅¹⁾

1) 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座、2) 沖縄中央病院、3) 南山病院



P3-18

気分(感情)障害(DSM-4)の症状評価尺度の問題点

堤 祐一郎

医療法人永寿会恩方病院

P3-19

うつ病患者における病相期間とBDNFの関連について

竹林 奈緒子、前嶋 仁、馬場 元、中野 祥行、里村 恵美、滑川 友紀、野本 宏、鈴木 利人、新井 平伊

順天堂大学医学部精神医学教室

P3-20

残存する記憶機能障害はうつ病再発のリスクを増加させる

前嶋 仁、馬場 元、中野 祥行、里村 恵美、滑川 友紀、竹林 奈緒子、野本 宏、酒井 佳永、鈴木 利人、新井 平伊

順天堂大学医学部精神医学教室

P3-21

過重労働によってうつ病を発症した患者の作業特徴**ーボールペン組立作業を用いた評価と治療ー**早坂 友成^{1,2)}、阪尾 学²⁾、松井 美智子²⁾、阪尾 紀子²⁾、中村 晃子²⁾、大南 絵里²⁾、下地 麻由子²⁾、田口 あかり²⁾、杉江 康子²⁾

1) 大阪保健医療大学保健医療学部リハビリテーション学科、2) 阪尾なんばメンタルクリニック

P3-22

寛解したうつ病患者の気質および性格傾向についての研究渡辺 茂樹¹⁾、浅野 正³⁾、馬場 元^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、小澤 和弘¹⁾、竹林 奈緒子^{1,2)}、野本 宏^{1,2)}、滑川 友紀^{1,2)}、里村 恵美^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊²⁾

1) Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、

2) 順天堂大学医学部精神医学教室、3) 文教大学人間科学部臨床心理学科

P3-23

コルチゾールが抑うつ喚起場面に対する適応的解釈に及ぼす影響津村 秀樹¹⁾、嶋田 洋徳²⁾

1) 早稲田大学大学院人間科学研究科、2) 早稲田大学人間科学学術院

P3-24

大学生のうつ病性障害の背景にある気質ー性格特性について

三井 信幸、朝倉 聡、河合 剛多、清水 祐輔、藤井 泰、賀古 勇輝、北川 信樹、井上 猛、小山 司

北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野

P3-25

心理社会的ストレスとストレス対処行動のうつ病との関連**ー日本の一般人口についての大規模疫学調査ー**鈴木 正泰¹⁾、今野 千聖¹⁾、降旗 隆二¹⁾、大寄 公一¹⁾、金野 倫子¹⁾、高橋 栄¹⁾、兼板 佳孝²⁾、大井田 隆²⁾、内山 真¹⁾

1) 日本大学医学部精神医学系精神医学分野、2) 日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野

P3-26

うつ病休職者を対象としたリワークデイケアにおける評価表作成とその効果清水 馨¹⁾、瀬戸口 和久¹⁾、内堀 麻衣子¹⁾、大野 真由子¹⁾、小野 紘子¹⁾、中村 しげ子¹⁾、堀江 朋子¹⁾、岡山 紀子²⁾、宣 聖美²⁾、白井 麻理¹⁾

1) 小石川メンタルクリニック、2) 早稲田大学大学院人間科学研究科



P3-27

NIDS (抗精神病薬による欠陥症候群) が気分障害を見えにくくする —統合失調症、慢性化、認知症との鑑別

上田 諭、大森 中、福田 一、坂寄 健、石坂 公介、大久保 善朗
日本医科大学精神医学教室

P3-28

気分障害における認知機能障害の臨床的意義

野田 隆政^{1,4,5)}、松田 太郎¹⁾、功刀 浩²⁾、吉田 寿美子¹⁾、中込 和幸³⁾、樋口 輝彦³⁾
1) 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター病院、
2) 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所、
3) 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター、
4) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科心療・緩和医療学分野、
5) 早稲田大学重点領域機構応用脳科学研究所

P3-29

入院うつ病症例の予後予測ツールとしてのTEMPS-Aの有用性に関する 前方視的研究

仲唐 安哉、井上 猛、中川 伸、亀山 梨絵、北市 雄士、大宮 友貴、小山 司
北海道大学大学院医学研究科精神医学分野

P3-30

TCIを用いたうつ病患者の人格的特徴について

大里 絢子¹⁾、中神 卓^{1,2)}、佐藤 靖^{1,3)}、土嶺 章子¹⁾、古郡 規雄¹⁾
1) 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、2) 大館市立総合病院神経精神科、
3) むつ総合病院精神科

P3-31

熊本県における中年者のうつ状態に関連する因子の地域比較

阿部 恭久¹⁾、藤瀬 昇²⁾、福永 竜太²⁾、中川 洋一³⁾、池田 学²⁾
1) 八代更生病院、2) 熊本大学医学部神経精神科、3) 熊本県庁総務部

4. ライフサイクルとうつ病

P4-1

中学校における集団社会的スキル訓練の長期的維持促進効果

田中 利枝¹⁾、加治屋 誠朗²⁾、佐藤 正二³⁾
1) 宮崎大学大学院教育学研究科、2) 台北日本人学校、3) 宮崎大学教育文化学部

P4-2

大学生における非定型うつ病の捉え方と抑うつ状態の関係

藤田 結子¹⁾、菊池 真緒²⁾、西垣 翔平²⁾、伊藤 優佳²⁾、橋本 港¹⁾、矢野 美琴¹⁾、小野 久江^{1,2)}
1) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域、
2) 関西学院大学文学部総合心理科学科心理科学専修

P4-3

児童生徒の抑うつ症状の性差および発達的変化の検討 —小児抑うつ尺度 (CDI) を用いて—

波戸 綾香¹⁾、尾形 明子²⁾、石川 信一³⁾、戸ヶ崎 泰子¹⁾、佐藤 正二⁴⁾
1) 宮崎大学教育文化学部、2) 広島大学大学院教育学研究科、3) 同志社大学心理学部



P4-4

地域高齢者における血清中脳由来神経栄養因子 (BDNF) とうつ、認知、健康パラメータとの関連

蜂須 貢¹⁾、端詰 勝敬²⁾、吉田 英世³⁾、河合 恒³⁾、平野 浩彦³⁾、小島 基永³⁾、藤原 佳典³⁾、大淵 修一³⁾、井原 一成⁴⁾

1) 昭和大学薬学部臨床精神薬学講座、2) 東邦大学医学部心身医学講座、
3) 東京都健康長寿医療センター研究所、4) 東邦大学医学部公衆衛生学教室

5. 自殺予防と家族への支援

P5-1

大学生における自殺の捉え方とその影響要因

辻本 江美、竹谷 怜子、小野 久江

関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域

P5-2

日本の一般成人人口における自殺念慮の頻度と関連要因

今野 千聖¹⁾、大崎 公一¹⁾、降旗 隆二¹⁾、鈴木 正泰¹⁾、高橋 栄¹⁾、兼板 佳孝²⁾、大井田 隆²⁾、内山 真¹⁾

1) 日本大学医学部精神医学系、2) 日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野

P5-3

うつ病における希死念慮と人格要因との関係について

田中 治¹⁾、中神 卓^{1,2)}、大里 絢子¹⁾、土嶺 章子¹⁾、古郡 規雄¹⁾

1) 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、2) 大館市立総合病院精神科

P5-4

うつ病者の家族を対象としたプロセスレコードを活用した心理教育プログラムの実施と評価

木村 洋子¹⁾、長谷川 雅美²⁾、桑名 行雄¹⁾

1) 大阪府立大学看護学部、2) 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻医薬保健学域保健学類

P5-5

自殺企図後のうつ病者の企図前・後における心理 —ナラティブ・アプローチによる語りから—

長田 恭子、長谷川 雅美

金沢大学医薬保健研究域保健学系

P5-6

再発を繰り返すうつ病者の家族の関わり

長田 恭子¹⁾、長谷川 雅美¹⁾、河村 一海¹⁾、正源寺 美穂¹⁾、金澤 千春²⁾

1) 金沢大学医薬保健研究域保健学系、2) 武蔵野赤十字病院

P5-7

親がうつ病になったときに使用する「子ども向け心理教育絵本」作成の取り組み

北野 陽子¹⁾、細尾 ちあき¹⁾、黒田 安計¹⁾、仙波 純一²⁾

1) さいたま市こころの健康センター、2) さいたま市立病院総合心療科



6. 産業メンタルヘルス

P6-1

うつ病勤労者の職場復帰の成功のキは何か？

堀 輝、香月 あすか、守田 義平、林 健司、吉村 玲児、中村 純
産業医科大学精神医学教室

P6-2

教員における抑うつ状態とQOLの関係について

竹谷 怜子、辻本 江美、小野 久江
関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域

P6-3

アレキシサイミア傾向が疑われるうつ病休職者に対して感情制御へのアプローチが奏功した事例

山本 貢司、横田 安奈、森山 史子、松村 英哉、小関 奈々子、三木 和平
三木メンタルクリニック

P6-4

交代勤務労働者に対する睡眠教育の精神健康への効果について

山本 愛、田中 克俊
北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学

P6-5

自記式質問紙による職域におけるうつ病スクリーニングの妥当性検証

足立 康則¹⁾、Aleksic Branko¹⁾、吉田 契造²⁾、尾崎 紀夫¹⁾
1) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、2) 株式会社デンソー健康推進部

P6-6

作業記憶課題中の前頭葉活動と抑うつ気分の関係

敦森 洋和¹⁾、山口 律子²⁾、岡野 依子²⁾、佐藤 大樹¹⁾、舟根 司¹⁾、木口 雅史¹⁾
1) 日立製作所中央研究所、2) NPO法人MDA-JAPAN(うつ・気分障害協会)

P6-7

産業メンタルヘルス調査におけるNIRSによる脳機能測定の有益性に関する予備的研究

岩山 孝幸¹⁾、磯部 ゆい²⁾、成田 恵³⁾、鍋田 恭孝⁴⁾
1) 立教大学大学院現代心理学研究科臨床心理学専攻博士後期課程、
2) 立教大学大学院現代心理学研究科臨床心理学専攻博士前期課程、
3) 早稲田大学大学院人間科学研究科臨床心理学研究領域修士課程、4) 立教大学現代心理学部

P6-8

うつ病等による休職者の復職後の勤務継続に影響する生理学的指標

池田 英二^{1,2)}、塩崎 一昌¹⁾、池田 東香¹⁾、鈴木 道雄²⁾、平安 良雄¹⁾
1) 横浜市立大学医学部精神医学、2) 富山大学医学部神経精神医学

P6-9

ある地方自治体とEAP機関との協働による精神疾患休職者への復職支援活動について(第2報)

田中 美穂^{1,2)}、中田 貴晃³⁾、末次 基洋¹⁾
1) 筑紫女学園大学大学院人間科学研究科、2) NPO法人おせっかい工房咲風里、
3) キューブ・インテグレーション株式会社



P6-10

職場のメンタルヘルス不調者の「発生予防の試み」についての検討伊藤 克人^{1,2)}、根本 香里¹⁾、山口 和彦³⁾

1) 東急病院健康管理センター、2) 東急病院心療内科、3) 東京急行電鉄株式会社運転車両部

7. 症例検討

P7-1

難治性腰痛へのEFTの劇的効果が寛解の契機となった軽症うつ状態を背景とした舌痛症

中野 良信

市立枚方市民病院歯科口腔外科

P7-2

**解離性同一性障害を呈した1女性例の入院治療の経験
～双極性障害の視点からのアプローチ～**小笠原 一能¹⁾、本田 綾²⁾、宮原 幸子²⁾、中道 文加³⁾、池田 沙弥香³⁾、木村 紗栄⁴⁾、
荒木 有希子⁴⁾、氏家 健⁵⁾、田中 美知子⁶⁾1) 医療法人亀廣記念医学会関西記念病院心療内科・精神科医師、2) 同看護師、3) 同作業療法士、
4) 同精神保健福祉士、5) 同臨床心理士、6) 同管理栄養士

P7-3

回避性パーソナリティ障害を伴う遷延性うつ病にsocial skills training (SST)が有効だった1例辻 かをる¹⁾、小野 賢一¹⁾、大下 隆司^{1,2)}、西村 勝治¹⁾、石郷岡 純¹⁾

1) 東京女子医科大学神経精神科、2) 代々木の森診療所

P7-4

**認知機能リハビリテーションを強化したリワークプログラムへの参加を通して
復職が可能となった双極性感情障害患者の一例**

池田 沙弥香、田中 亜美

医療法人亀廣記念医学会関西記念病院